

社会課題解決プロジェクト募金結果のご報告

平成26年1月1日～3月31日までの間、広島県共同募金会の社会課題解決プロジェクトとして、募金活動を実施し、たくさんの方々にご支援を頂きました。この結果、上記期間中に集まったピピオへの募金は、104件、89万2,311円となりました。ありがとうございました。いただいたお金は、今後、ピピオを運営するための費用として、大切に使用させていただきます。

期間中は、そごう広島店とメルパルク広島の前で、街頭募金の呼びかけを行い、ピピオのパンフレットと募金用紙を配布するなどし、ピピオの活動をより多くの人に知っていただくための活動もしておりました。ピピオの会員の方に声をかけていただくこともあり、活動の広がりを感じることができました。

全国でシェルターをめぐる財政について厳しい問題があることは、皆さんもご承知のことと思いますが、ピピオを安定して運営し、少しでも多くの居場所を失った子どもたちに寄り添っていきけるよう、引き続き、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

～ピピオからのお知らせ掲示板～

● 寄付等のご協力ありがとうございました ●

井上様、山本様、山村様、堀様、政森様など多数の方々から寄付（金銭、家電製品、食料品、衣類、生活雑貨など）を頂いております。日々の子どもの生活やより充実した自立支援のために活用させていただきます。この場をお借りして御礼申し上げます。

● 生活用品の募集をしています ●

NPO法人ピピオ子どもセンターでは、ピピオの家から巣立つ子どもたちへの生活用品（家具家電含む）等の提供を行っています。皆様のお手元にあります、使われていない生活用品等をご提供頂ければ幸いです。

平成26年4月末日時点の会員数

正会員（個人）	93名	正会員（団体）	4団体
賛助会員（個人）	62名	賛助会員（団体）	2団体

発行者 特定非営利活動法人ピピオ子どもセンター 事務局
〒730-0005 広島市中区西白鳥町16番7号NIDIビル202 那須法律事務所内
TEL: 082-221-9563 FAX: 082-299-7629

ひなばと



～NPO法人ピピオ子どもセンター 会報～
vol. 12

平成26年5月12日

子どもの日記念シンポジウム2014・開催

4月27日に広島弁護士会主催、ピピオ子どもセンター後援で子どもの日記念シンポジウム2014「『非行少年』に寄り添う」が開催されました。当日はピピオ子どもセンターの会員の方も多くご来場いただき、ありがとうございました。

第一部では高校生と弁護士らによる演劇「はばたけピピオ！パート5～明日への路」が上演されました。強盗致傷事件を起こした少年が非行に走ってしまった背景や、非行からの立ち直り（周囲の大人の関わりや少年の葛藤）などが分かりやすく描かれていました。「少年の非行というのは、人権侵害の蓄積の結果としてのSOSである。」という劇中での弁護士のセリフが印象的でした。

第二部では、「非行少年と弁護士たちの挑戦～少年少女は立ち直れるか？弁護士たちは、悩み、考え、行動した～」と題し、大谷辰夫弁護士と中田憲悟弁護士の対談が行われました。非行少年に付添人がほとんどついていなかった当時の話や、非行少年との関わり方、被害者への謝罪、国選付添人対象事件の拡大、厳罰化傾向など多岐にわたる論点を第一部で上演された演劇とも絡めながら具体的に説明がされていました。参加者からは、弁護士が少年の付添人としてその更生にこれほど関わっているとは知らなかったなどという感想が出されていました。

ピピオの家では、行き場のない子どもたちを受け入れています。その中には事件を起こしてしまった子どもたちもいます。そのような子どもたちに、どのように関わっていくべきか考える機会になりました。



会員の皆様へのご挨拶～第12回～大石結加

会員の皆様には、日頃よりピピオの活動にご理解ご協力を賜り、熱く御礼申し上げます。

ピピオの家も無事4年目を迎えることができ、この間30名の様々な事情を抱えた子どもたちがピピオの家にたどり着き、そして巣立っていきました。

人は、人間として社会で生きていくための重要な第一歩として、『基本的信頼感』を乳幼児期に獲得していきます。自分では何もできず泣くことで要求を表現するだけの赤ちゃんの頃から、養育者による適切ななかかわりの中で、泣けば空腹が満たされる「この社会は信頼に値する」、また自分を愛し守ってくれる養育者の姿から「社会に受け入れられている自分は生きていく価値がある」という、その後の人生を支える根っこの土台が形作られていくのです。

しかし、もしその『基本的信頼感』を獲得することができなかつたら……両腕に無数のリストカットの痕の残る少女。体の痛みが、一瞬でも心の痛みを消してくれたのでしょうか？それとも、うっすらと滲み始める血の色が、自分の命を実感させてくれたのでしょうか？体の傷に隠された心の傷に、言葉もありません。

いま、一般的に「家庭の子育て力の低下」が言われています。ピピオを訪れる子ども達の事情も、その延長線上にあるように思えます。保護者自身が様々な問題を抱え、子育てどころでは無い場合。あるいは既に、家庭そのものが崩壊している場合もあります。ピピオを訪れる子ども達の多くは、今まで期待しては裏切られ続けた経験から、大人への不信感でいっぱいです。自分の言葉には耳を貸してなどもらえない、自分は社会に受け入れられてはいない、そんな自分に価値は無い。そんな子ども達一人一人の声に耳を傾け、まっすぐに向き合い、あなたを支えようとする大人がいること、社会は信頼しても良い場所であること、そして何よりもあなたはかけがえのないたった一人の大切な存在なんだということ、少しでも伝えていけたならと活動を続けています。

ピピオがこれまで受け入れてきた30名の子ども達。これは、多い数字なのでしょうか？それとも少ない数字なのでしょうか？こんなにも居場所の無い子ども達が居るのか？とお考えになられる方もいらっしゃるでしょう。しかし現実、入居申し込みがあっても定員いっぱいでは断らざるを得ないケースもたくさんありました。ピピオの実績以上に、心の巣を必要としている子ども達は多いのです。

どうかこれからも、大人の都合で生き難い人生のスタートを切らされた子ども達を支援するピピオの活動に、ご理解ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

NPO法人ピピオ子どもセンター 理事 大石 結加

ボランティアスタッフ養成講座のご案内

本年6月11日から7月30日にかけて第5回ボランティアスタッフ養成講座を開催します。

当センターでは、子どもシェルター『ピピオの家』の運営にあたり、多数のボランティアスタッフの皆さまにお手伝い頂いております。また、本年は男子を対象とした自立援助ホームも立ち上げる予定にしており、そこでもボランティアスタッフの方にお手伝い頂きたいと考えております。今後、当センターでは新たなボランティアスタッフを募集していきたいと考えておりますが、応募される方はこの養成講座を受けて頂くことを前提にボランティアをお願いしています。(内容や申込み方法等については、別紙の募集案内をご覧ください。)

また、今回の養成講座は、公益財団法人マツダ財団との共同事業であるスタートラインプロジェクトの一環として開催し、現在ボランティアスタッフや子ども担当弁護士として関わっている方のスキルアップも目的としており、さらには広く子どもの問題に関心のある方を対象に開催するものです。

多くの方のご参加を希望しておりますので、よろしくお申し込み申し上げます。

～ピピオを巣立った子どもたちの声～

これまでにピピオを巣立った子どもたちの声を紹介しています。今回は、昨年9月に巣立ったYさんから寄せられたメッセージです。

ピピオでの生活は、私にとって希望を導いてくれたところであり、本当に家みたいなところでした。時には、不安で眠れなく、せっかく作ってくれたのにご飯にも手をつけられず、先のことが決まらなくイライラしたり・・・それでスタッフにあたった時もあり、すごく申し訳ないです。でも、スタッフさんは私が悩んだり、あたったりしても、私、まるごとを受けとめてくれた。正直、辛い時期もあったけれど、一緒に悩んでくれるし、本当に家族みたいなところでした。スタッフさんやボランティアさん、事情があって一緒にピピオですごした子とすごせて楽しかったです。大学に行きたいと思っているので、バイトと学校を両立させるため、今、頑張っています。

＝スタッフ通信 第5回＝

「ピピオの家」スタッフのNです。

少し前の事になりますが、第7回・ピピオの家・たこ焼きパーティーが開催されました。私にとっては、恒例行事になっているたこ焼きパーティー。他のスタッフは、まだ一度もたこ焼きパーティーをした事が無いという事だったので、私の勤務日以外で開催となるよう願ったのですが、今回も私の勤務日となってしまいました。事前に入居児童3名が計画を立て、理事長、子担の先生、事務員さんが参加して下さったので、実現した次第です。

当日、子どもたちは昼頃から準備を始めていました。先生方を“おもてなし”すると言い、シュークリーム作りに初挑戦しました。残念な事に、シューは上手く膨らみませんでした。それでも皆からは「美味しい!」「買ったのと同じ味!」等と言って貰え、喜んでいました。メインとなる、たこ焼き作りも皆でワイワイ会話をし、楽しみながら行いました。たこ以外にも、ウインナーやチーズ、コーン等のトッピングも揃え、それぞれの好みに合わせて作りました。顔を真っ赤にしながら、何度もたこ焼きを焼く子どもたちの姿が印象的でした。

デザート後は、先生方をオセロやトランプ遊びに誘い、対戦していました。オセロをした子どもはとても強く、先生方を次々と負かし、“何時でも対戦する、受けて立つ”と豪語していました。今まで知られる事のなかった彼女の一面が、見られた瞬間でした。

楽しい時間も、あっという間に4時間経過。長時間にわたり、有意義な時間を持つ事が出来ました。先生方と子ども達の距離が、ぐっと縮まったのは言うまでもありません。

子ども達にとっては、先生方とピピオの家から戸外に出掛ける事は息抜きとなり、時には?かなり?必要な事かもしれませんが、ピピオの家の中で、子ども達が発案し、計画を立て、先生方をおもてなしする事も大切なひと時となるようです。あくまで、子ども達が主体となって行われる〇〇パーティー。口には出しませんが、内心、秘かに〇〇パーティーが今後も開催される事を願っているのはNだけではないはず。



U理事長 ●18-460 Bさん
S本弁護士 ●18-460 Bさん

あなたたちが弱いよ～

強いね…